

兵庫県神戸市方言



兵庫県方言区画図

れる。これらの点で、播磨方言との違いが目立つようになり、ヨル・トルのAspect対立など大阪方言にはない特徴も有するが、その差はほぼなくなりつつあると考えられ、現在は摂津方言に含まれると考えられる。

【調査概要】 本稿の記述は、基本的に神戸市（区画図参照）に生育した筆者（1984年生まれ）の内省をもとに行っている。用例は、昔話資料から引用した（用例出典参照）。引用元の記載のないものは、聞き取り調査の際に確認した例文である。

【兵庫県の方言区画】 兵庫県は南北にわたっており、県内における方言差の大きい県の一つである。方言区画としては、一般に、「但馬方言」「丹波方言」「播磨方言」「摂津方言」「淡路方言」の5つに分けられる。これらのうち、「但馬方言」は中国方言に、「丹波方言」は京都方言に、「摂津方言」は大阪方言にそれぞれ似た特徴を有する。特に、「但馬方言」は、乙種アクセント地域であり、断定辞はダを使用し、w語幹（ワ行五段）動詞過去形でアラッタ（洗った）のように促音便形をとるという点でその他の方言とは異なる。「淡路方言」も「播磨方言」に属する明石市や「摂津方言」に含まれる神戸市と地理的には近いものの、断定辞ジャの使用が優勢であること、「摂津方言」「播磨方言」にはない独特の終助詞を有することから、これらの方言域とは区別される。

【神戸市方言について】 神戸市方言は、もともと播磨方言に区画される方言である。しかし、神戸市方言では、播磨方言域では今でも使用されるテヤ敬語が衰退し、現在はハル敬語の使用がほとんどであることや、若年層では、近年大阪方言で新しく用いられるようになってきた否定辞～ヤンの使用がみられるなど、大阪方言に近くなってきていることが観察さ

兵庫県神戸市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カキ (一)	ミロ ミ (一)	コイ キ (一)	シロ セ (一) シ (一)
	禁止	カクナ	ミルナ	クルナ	スルナ スナ
	意志	カコ (一)	ミヨ (一)	コヨ (一)	シヨ (一) ショ (一)
	推量	カクヤロ (一)	ミルヤロ (一)	クルヤロ (一)	スルヤロ (一)
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カイタラ	ミタラ	キタラ	シタラ
派 生 類	否定	カカヘン カカン	ミーヘン ミン	コーヘン コン	セーヘン セン
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカセル カカス	ミサセル ミサス	コサセル コサス	サセル サス
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能肯定	カケル	ミレル	コレル	ヨー スル 《デキル》
	可能否定	ヨー カカン カカレヘン カケヘン	ヨー ミン ミラレヘン	ヨー コン コラレヘン	ヨー セン デキヘン
	尊敬	カイテヤ カカハル カキハル	ミテヤ ミハル	キテヤ キハル	シテヤ シハル
	軽卑	カキヨル	ミヨル	キヨル	シヨル
	継続	カイトル カキヨル	ミトル ミヨル	キトル キヨル	シトル シヨル
	希望	カキタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクンヤ カクネン	ミルンヤ ミルネン	クルンヤ クルネン	スルンヤ スルネン

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak·u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik·uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag·u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das·u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac·u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom·u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir·u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)·u	コー-タ	wをR(長音)にする。wの前の母音がaの場合はoに変える。基幹が1拍の場合は長音化する。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生 [ガクセー] (だ)
終止類	断定非過去	アカイ	シズカヤ	学生ヤ
	断定過去	アカカッタ	シズカヤッタ	学生ヤッタ
	推量	アカイヤロ (一)	シズカヤロ (一)	学生ヤロ (一)
接続類	連体非過去	アカイ	シズカナ	《学生ノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカヤッタ	学生ヤッタ
	中止	アコ (一) テ アカクテ	シズカデ	学生デ
	中止過去	アカカッテ	シズカヤッテ	学生ヤッテ
	仮定	アカカッタラ	シズカヤッタラ	学生ヤッタラ
派生類	否定	アカナイ アカイコトナイ アカイコトアラヘン	シズカヤナイ シズカヤアラヘン	学生ヤナイ 学生ヤアラヘン
	なる	アコ (一) ナル アカナル	シズカニナル	学生ニナル
	副詞	アコ (一) アコーニ	シズカニ	(該当形 欠)
	丁寧	アカイデス	シズカデス	学生デス
	のだ	アカインヤ アカイネン	シズカナンヤ シズカヤネン	学生ナンヤ 学生ヤネン

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。「カク」(書く)の場合、カ

カ-ン(kak·a-N)、カキ-ヨル(kak·i-joru)、カク(kak·u)、カケ(kak·e)、カイ-タ(kai-ta)など。また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。

不規則な活用をする動詞に「クル」(来る)と「ス

ル(為る)がある。ともに一段型に近い活用をする
が、「クル」は、キ-タ (k-i-ta)、ク-ル (k-u-ru)、コ
イ (k-o-i) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」
の3段に、「スル」は、サ-レル (s-a-reru)、シ-タ (s-i-ta)、
ス-ル (s-u-ru)、セ- (s-e-R) などのように、基幹が
「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

断定非過去形は、連体非過去形と同形で、「書く」
「見る」「来る」「する」は「カク」「ミル」「クル」
「スル」という形になる。

〈断定過去形〉

断定過去形は、連体過去形と同形で、多段型動詞
では基幹音便形に、一段型動詞では基幹 (=語幹)、
「来る」「する」では基幹イ段形に「タ」を後接した
形となる。

〈命令形〉

命令形には、共通語と同じ形式「カケ」「ミロ」「コ
イ」「シロ」に加えて、「カキ(一)」「ミー」「キー」
「シ(一)」のように基幹(多段型動詞・「来る」「す
る」ではイ段)あるいは基幹を長音化した形がある。
「する」には「セ(一)」のようにエ段基幹あるいは
エ段基幹を長音化した形による命令形もある。なお、
これらの命令形は、終助詞「ヤ」「ヨ」「ナ」などを
伴うこともある。

・ハヨ ヨミ {ヤ/ヨ/ナ}。(早く読めよ。)

・ハヨ ネー {ヤ/ヨ/ナ}。(早く寝ろよ。)

〈禁止形〉

禁止形は、断定非過去形に「ナ」を後接させる。
末尾拍がルの動詞では、「ル」が撥音便化を起こし、
「ミンナ」「クンナ」「スンナ」のようになることも
ある。また、一段型動詞の基幹と「する」の基幹「ス」
に「ナ」を後接させて作る形もある。

・コンナコト モー ニドト スンナヨ。(こん
なこともう二度とするなよ。)

〈意志形〉

意志形は、「カコ(一)」「ミヨ(一)」「ココ(一)」
「シヨ(一)」という形で用いられる。「シヨ(一)」
は融合して「シヨ(一)」となることがある。

・ソレ キコー オモットッテン。(それを聞こ
うと思っていたのだ。)

・ツギカラワ チャント シヨ一。(次からはち
ゃんとしよう。)

〈推量形〉

推量形は、断定形に「ヤロ(一)」を後接する。

・タブン アイツモ イクヤロー。

〈連体非過去形〉

上述のとおり、連体非過去形は断定非過去形と同
形である。

〈連体過去形〉

上述のとおり、連体過去形は断定過去形と同形で
ある。

〈中止形〉

中止形は基幹音便形など過去形と同じ形に「テ」
を後接した形となる。

〈仮定形〉

仮定形は「タラ」の使用が優勢である。「レバ」は
使用されないこともないが、標準語的な響きを伴う。

・「いや、いや、だいじょうない、だいじょうな
い。わしのいうようにしたら、いいぐあいに
いくちゅうもんじゃ。」(いや、いや、心配な
い、心配ない。私の言うとおりにすれば、う
まい具合にいくというものだよ。)(兵庫・「た
たかいかでも鳴るたいこ」)

〈否定形〉

否定形は多段型動詞はア段形に、一段型動詞は基
幹に、「来る」は「コ」に、「する」は「セ」に「ン」
または「ヘン」がつく。「ヘン」が後接するとき、基
幹の長さが1拍の場合には長音化する。

・それから、ガッターラの出た話は、まだ聞かん
な。(それから、河童が出た話は、まだ聞か
ないねー。)(兵庫・「吉さんとガッターラ」)

・ソんなニ イヤヤッターラ {センカッターラ/
セーヘンカッターラ} エーノニ。(そんなに
嫌ならしなければいいのに。)

・アワワ デーヘンケドナー。(泡は出ないけれ
どね。)

否定形自体の活用は、カカン・カカヘン(非過去
形)、カカンカッタ・カカヘンカッタ(過去)、カカ
ンヤロ・カカヘンヤロ(推量形)、カカンクテ・カ
カヘンクテ(中止形)、カカンカッターラ・カカヘン
カッターラ(仮定形)、カカンクナル・カカヘンクナ
ル(なる形)となる。

〈丁寧形〉

動詞の丁寧形は、多段型動詞はイ段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に「マス」が後接する。

〈使役形〉

使役形は、多段型動詞のア段形と「する」の「サ」に「セル」が、一段型動詞の基幹と、「来る」の「コ」に「サセル」がついて「カカセル」「サセル」「ミサセル」「コサセル」となる。また、同じ基幹に「ス」「サス」がついて、「カカス」「ミサス」「コサス」「サス」となる形も用いられる。「セル」「サセル」は一段型動詞と、「ス」「サス」は、多段型動詞と同様の活用型をとる。

- ・オキタラ ジブンデ アルカセルカラ イマワ エーヤン。(目を覚ましたら自分で歩かせるから今はいいじゃないか。)
- ・ソナ ダラシナイ ヤツナンヤッタラ、ソイツダケ ハヨ コサセタラ エーネン。(そんなにだらしのない人なら、その人だけ早く来させればいいんだよ。)

〈受身形〉

受身形は、多段型動詞・「する」のア段形に「レル」、一段型動詞の基幹、「来る」のオ段形「コ」に「ラレル」を後接させて作る。受身形自体は、一段型動詞と同様の活用型をとる。

- ・とおしに入れられたゴンゴロバチは、せまいのでおこって、ブンブンさわいでおる。(とおしの穴に入れられたゴンゴロバチは、狭いので怒って、ブンブン騒いでいる。)(兵庫・「たたかいでも鳴りたいこ」)

〈可能(肯定・否定)形〉

多段型動詞はエ段形に「ル」が後接し、一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段形「コ」に「レル」が後接して、「カケル」「ミレル」「コレル」となる。「する」はこれらの形はなく、「ヨー スル」または、語彙的に「デキル/デキヘン」を用いる。なお、否定のとき、多段型動詞のみエ段形に「ヘン」がつき「カケヘン」となる場合とア段形に「レル」「ヘン」が後接して「カカレヘン」となる場合がある。一段型動詞は基幹に「ラレル」「ヘン」が後接して「ミラレヘン」に、「来る」では基幹に「ラレル」「ヘン」が後接して「コラレヘン」などとなる。また、否定のと

きのみ「ヨー カカン」「ヨー ミン」「ヨー コン」「ヨー セン」を能力不可能・心情不可能で用いる。

		汎用	能力・心情
書く	肯定	カケル	
	否定	カカレヘン カケヘン	ヨー カカン
見る	肯定	ミレル	
	否定	ミラレヘン	ヨー ミン
来る	肯定	コレル	
	否定	コラレヘン	ヨー コン
する	肯定	《デキル》	
	否定	《デキヘン》	ヨー セン

- ・マダ チーサイノニ コンナ ムツカシーカンジ カケテ エライネー。(まだ小さいのにこんなに難しい漢字を書けるなんて偉いね。)
- ・コンナ セマイ ミチ ヨー ウンテンセンワ。(こんな狭い道は運転できないよ。)

〈尊敬形〉

「テヤ」「ハル」が用いられる。ただし、高年層では「テヤ」「ハル」が、若年層では「ハル」が用いられるといった年代差がある。伝統的には「テヤ」が用いられていたが、近年、大阪や京都から「ハル」を取り入れたと考えられる。

「テヤ」「ハル」ともにすべての動詞に後接可能である。「ハル」が多段型動詞に後接する際は、「カカハル」のようにア段基幹となることも、「カキハル」のようにイ段基幹となることもある。

- ・オーバーチャン キノーワ オーサカ イッテヤッタン? (おばあちゃん昨日は大阪に行かれてたの?)
- ・アタラシー コーチャーセンセー キハッタラシーナー。(新しい校長先生が来られたらしいねー。)

〈軽卑形〉

軽卑形は「ヨル」が用いられ、多段型動詞はイ段基幹に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段「キ」「シ」にそれぞれ後接する。

- ・青池のガツタラは、けつをさわりにきよんので、あぶないねやな。(青池の河童は、お尻を触りに来るので、危ないのだね。)(兵庫・

「吉さんとガッタラ）」

〈継続形〉

継続形は「トル」「ヨル」を用いる。「トル」は多段型動詞の基幹音便形等、過去形に準じる形に接続する。「ヨル」は上の軽卑形と同じである。

「ヨル」は将然・進行・習慣を表し、「トル」は結果継続を表す。

- ・モー チョットデ ガケカラ オチヨッタ。
(もう少しで崖から落ちるところだった。)

【将然】

- ・イマ ソッチ ムカイヨルカラ モー チョット マットツテ。(今、そっちに向かっているからも少し待っていて。)

【進行】

- ・アイツ キノーカラ ズット ネトル。(あいつは昨日からずっと寝ている。)

【結果継続】

〈希望形〉

希望形は「タイ」を用いて、多段型動詞のイ段基幹等、軽卑形と同じ形に接続する。

〈のだ形〉

「のだ」に相当する形式として連体形につく「ノヤ」と断定形につく「ネン」が用いられる。「ノヤ」は、「ンヤ」になることが多く、「ノヤ」はほとんど使われない。

- ・アイツジャナクテ オレガ カウンヤ。(あの人は私ではなく私が買うんだ。)
- ・ジツワ イマカラ トーキョー イクネン。(実は今から東京に行くんだ。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の交替語幹は、語幹末母音が a の場合に、交替語幹として末尾が o に替わる「アコ(一)(赤)」などが現れる。また、語幹末母音が e の「エー(良)」では o に替わる「ヨ(良)」が交替語幹となる。中止形・否定形・なる形・副詞形でこれらの交替語幹やその長音形が現れる。語幹末母音が u・o の場合は語幹が交替することはなく、中止形などでも語幹やその長音形が用いられる。

〈断定非過去形〉

共通語の形容詞と同様に、イ語尾で終わる。

〈断定過去形〉

語幹に「カッタ」を後接した形が用いられる。

- ・コノ キモノワ、タカカッタ。(この着物は、高かった。)

〈推量形〉

推量形は断定形に「ヤロ」を後接した形になる。

- ・どないしたらええやろ。どないしたらええやろ。(どうしたらいいだろう。どうしたらいいだろう。)(兵庫・「魔よけみそママ」)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・タカカッタ キモノオ、ヤスク コータ。(高かった着物を、安く買った。)

〈中止形〉

中止形は、語幹の長音形、または交替語幹の長音形に「テ」を後接した形または「アカクテ」になる。

- ・オマエノ クツ アカクテ メダツナ。(あなたの靴は赤くて目立つね。)
- ・コノホン {アカテ/アカーテ/アコテ/アコーテ} メー チカチカスル。(この本は赤くて目がちかちかする。)

〈中止過去形〉

中止過去形は、語幹音便形に「テ」が後接し高たちになる。

- ・キノー コータ コノホン アカカッテ メー チカチカシタ。(昨日買ったこの本は赤くて目がちかちかした。)

〈仮定形〉

仮定形は、動詞的活用の音便基幹「カッ」に「タラ」が後接した形になる。

- ・吉さんは、けつがかたかったら、ガッタラもようけつぬかんわいという気があったんやな。(吉さんは、お尻が固ければ、河童もお尻を刺すことができないと思っていたんだ。)(兵庫・「吉さんとガッタラ」)

〈否定形〉

否定形は、「アカナイ・アコ(一)ナイ」のように語幹と交替語幹(またはその長音形)の両方が現れる。また、「アカイコトナイ」「アカイコトアラヘン」のように連体形に「コトナイ」「コトアラヘン」がつく形も用いられる。

- ・コレクライヤッタラ ソナイ {アコナイ/

アカイコトナイ デ。(このくらいだったらそんなに赤くないよ。)

〈なる形〉

なる形は、否定形と同様に「アカナル・アコ(一)ナル」のように語幹と交替語幹(またはその長音形)の両方を用いる。

- ・サイキン カラダノ チョーシ {ワルナツタ / ワルーナツタ} ンヤ。(最近からだの調子が悪くなったんだ。)

〈副詞形〉

副詞形は、交替語幹やその長音形が単独で使われる。「アコーニ」など「ニ」が付く形もある。

- ・モタモタセント ハヨー セー。(もたもたしていないで、早くしろ。)

〈丁寧形〉

丁寧形は、断定形に「です」が後接した形となる。

〈のだ形〉

連体形に「ノヤ」がつく形と、断定形「ネン」を後接した形が用いられる。「ノヤ」は、「ンヤ」になることが多く、「ノヤ」はほとんど使われない。

【形容名詞述語・名詞述語】

〈断定非過去形〉

形容名詞述語、名詞述語とも断定非過去形は形容名詞・名詞に「ヤ」が後接する。

- ・キョーワ シズカヤナ。(今日は静かだね。)
- ・アノヒトワ センセーヤ。(あの人は先生だ。)

〈断定過去形〉

形容名詞述語・名詞述語ともに動詞的活用の音便基幹「ヤッ」に「タ」を後接した形を用いる。

- ・ムカシノ イエワ モクゾーデモ ダイジョーブヤッタ。(昔の家は木造でも丈夫だった。)

〈推量形〉

推量形は、「ヤロ(一)」を後接した形になる。

- ・「うまいこと言うて、わしのけつに手を入れる気やろ。きょうは、そうはいかんで。(うまいことを言っ、私のお尻に手を入れる気だろ。今日はそうはいかないぞ。)(兵庫・「吉さんとガッタラ」)

〈連体非過去形〉

形容名詞述語の連体非過去形は「ナ」の形が使用される。

- ・キノーワ シズカナ ヒーヤッタナ。(昨日は静かな日だったね。)

名詞の連体格では助詞「ノ」が用いられる。

- ・ソノ ガクセーノ ホン(その学生の本)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形である。

〈中止形〉

非過去の中止形は、「シズカデ」「学生デ」のように「デ」を後接させて作る。

〈中止過去形〉

形容名詞・名詞述語にも過去中止形があり、「ヤッテ」という形になる。「デ」は、主節のテンスが現在のとときも過去のとときも後接するが、「ヤッテ」という形は、過去のとときのみ後接する。

- ・アイツ イマ マダ ジューキューサイ {デ / ×ヤッテ} センキョケン ナイネン。(あいつ、今はまだ19歳で選挙権がないんだ。)
- ・アイツ キョネン マダ ジューキューサイ {デ / ヤッテ} センキョケン ナカッテン。(あいつ、去年はまだ19歳で選挙権がなかったんだ。)

〈仮定形〉

仮定形は、「ナラ」が後接した形または動詞的活用の音便基幹「ヤッ」に「タラ」が後接した形になる。

- ・モー チョット マワリガ {シズカナラ / シズカヤッタラ} コノ イエニ キメタン ヤケドナ。(もう少し静かだったらこの家に決めたんだけどね。)

〈否定形〉

否定形は、「ヤナイ」「ヤアラヘン」を後接した形になる。

- ・アノヒトワ、センセーヤナイ。(あの人は、先生ではない。)
- ・むすこはなんとか返事をせんらんとと思うが、朝からなん蹴いうて、数えて打ったわけやない。(息子は何とか返事をしなければならぬと思うけれども、朝から何蹴と数えて打ったわけではない。)(兵庫・「仁王さんの力くらべ」)

〈なる形〉

なる形は、「ニナル」を後接した形になる。なる形の場合、「静かンなる」のように「ニ」が「ン」にな

ることもある。

〈副詞形〉

形容名詞の副詞形は、「シズカニ」など「ニ」が付いた形が用いられる。

〈丁寧形〉

形容名詞述語・名詞述語の丁寧形は、「デス」を後接した形になる。

〈のだ形〉

のだ形は連体形「ナ」に「ンヤ」を後接した形になる。また、断定形「ヤ」に後接する「ネン」も使用される。

- ・ア、アンタ アシタ トーバンナンヤ。(あ、あなた明日当番なんだ。)
- ・アンナー、アタシ アシタ トーバンヤネン。(あのね、私明日当番なんだ。)

なお、過去形には「ネン」は後接できず、「ヤッテン」となる。

- ・アタシ キノー トーバンヤッタンヤ。(私昨日当番だったんだ。)
- ・アタシ キノー トーバンヤッテン。(私昨日当番だったんだ。)

用例出典

兵庫：兵庫県小学校国語教育連盟編（2004）『読みがたり 兵庫のむかし話』日本標準

参考文献

岡田莊之輔・梅垣実（1962）「兵庫県方言」梅垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂

鎌田良二（1979）「兵庫県方言文法の研究」桜楓社

鎌田良二（1982）「兵庫県の方言」『講座方言学7 近畿地方の方言』国書刊行会

（酒井雅史）